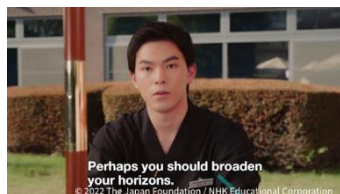


第18話「視野を広げろって言われても」

課題	アドバイスもらったが、具体的にどのような行動を取ったらいいのかわからない
ストラテジー	例を引き出す
効果	相手の考えに対する理解が深まる

<課題>

アドバイスもらったが、具体的にどのような行動を取ったらいいのかわからない



スアンは麗から「もっと視野を広げたほうがいい」とアドバイスを受けました。言葉の意味はわかりましたが、やんすに指摘されて、具体的にどうすればいいかわからないということに気づきました。

<ストラテジー使用場面>



スアン: 視野を広げるって、例えは…。
麗: ああ、例えは？うーん、そうだな。
例えは趣味のサークルに入ってみるとか、
習い事をするとか、
あとは地域のイベントに参加するとか。

<スアンが使ったストラテジー>

例を引き出す



「視野を広げる」と言われて具体的にどうすればいいかわからなかったスアンは、「例えは…。」と言って、具体的な例を引き出そうとしました。すると、麗は、趣味のサークルに入る、習い事をする、地域のイベントに参加するといった、「視野を広げる」ことにつながる例をあげてくれました。

<どんなストラテジー？>

このストラテジーは、抽象的なことを言われたときに、詳しいことを聞くためのストラテジーです。ドラマの中で麗は「視野を広げたほうがいい」とスアンにアドバイスしました。抽象的なアドバイスだったので、スアンは「わかったような、わからないような…」という気持ちになりました。やんすと話しているうちに、「視野を広げるために、具体的に何をすればいいかわからない」ということに気づき、スアンは麗から具体的な例を引き出し、視野を広げるためにできることが何か、理解することができました。

このように、抽象的な言葉を聞いたときには、相手が言ったことに対する理解を深めるために、具体的な例を聞くことが重要です。スアンは「なるほど。」と言って、はじめは麗のアドバイスに納得した様子でした。もしこのまま麗に具体的な例を聞かなかった場合、「視野を広げる」ためにどんなことをすればいいか、スアンは麗と全然違うことをイメージしてしまって、せっかくのアドバイスをうまく活かすことができなかったかもしれません。そのため、具体的な例を聞くことは相手のことを理解するために重要なストラテジーだと言えます。

<どうやって使う？>

「ことばの意味はわかるけど、何をどうしたらいいかわからない」というときがこのストラテジーの使いどきです。スアンのように抽象的なアドバイスをもらったときに使うと、もらったアドバイスを正しく理解するのに役立ちます。抽象的なアドバイスとは、今回の「視野を広げたほうがいい」の他にも、「いろいろな経験をしたほうがいいよ」、「もっと工夫したほうがいいよ」など、いろいろあります。同じような表現を聞いたことがある人も多いかもしれません。このようなアドバイスは、一つ一つの言葉の意味はわかるけど、具体的に何をすればいいのかわからないのか、人によって考え方が変わります。ですから、例を引き出して、相手の話を正しく理解することが大切です。

例を聞こうとするときは、言いかたを工夫してみましょう。スアンが使っていたのは「例えば」という短い言葉ですが、言いかたによっては、「あなたの言っていることが全然わからない！」と怒っているようにも聞こえてしまいます。相手のことを理解したい、具体的なことを教えてほしいという気持ちを伝えるには、スアンのように、「例えば…」と、途中で文が終わるような言いかたをするのもポイントです。

抽象的な言葉は人によって捉え方が異なるということがよくあります。特に、「日本で生まれ育った麗」と「ベトナムから来たスアン」のように、文化的な背景が異なる人とコミュニケーションをするときは、捉え方に違いがあるのも自然なことです。はじめから誤解のないような伝え方をすることももちろん大切ですが、「よくわからない」ということがあったら、具体的な例を聞いたり、質問をしたりすることも、お互いをよく理解しあうために必要なことだと言えます。

<もう一歩> わかったつもり？

スアンのように、人の話を聞いているときに「わかったような、わからないような…」という気持ちになることはありませんか。このとき、何がわかって、何がわからないのでしょうか。会話を

しているときの「わかる／わからない」にはいろいろな側面^{そくめん}があります。

(1)	すみれ: 502号室は12時に…チェックインやから、先に掃除 ^{そうじ} しとこか。 スアン: すみません、502号室は12時に…何 ^{なん} ですか。
(2)	すみれ: 502号室は12時に…チェックインやから、先に掃除 ^{そうじ} しとこか。 スアン: すみません、チェックインって何 ^{なん} ですか？
(3)	麗 ^{れい} : スアンももっと視野 ^{しや ひろ} を広げた方がいいんじゃないかな。 スアン: 「視野 ^{しや ひろ} を広げる」ですか。なるほど。 --- スアン: 視野 ^{しや ひろ} を広げるって、例 ^{たと} えば…。

(1)のスアンは「相手が何^{あいて なん}と言^いっているのかわからない(聞き取れない)」という状況^{じょうきょう}でした。(2)のスアンは「チェックイン」の意味がわからず、太田^{おおた}に意味を尋ねているところです。(3)のスアンは、「なるほど」と答えているので「視野^{しや ひろ}を広げる」という言葉^{ことば}の意味はわかっていたと^{かんが}えられますが、具体的な例まではわかっていなかったようです。そのため、スアンは「わかったような、わからないような…」という気持ち^{きもち}になったのですね。

(1)相手が何^{あいて なん}と言^いっているのかわからない、(2)何^{なん}と言^いっているのかはわかるが言葉^{ことば}の意味がわからない、(3)言葉^{ことば}の意味はわかるが具体的な例^{ぐたいてき れい}がわからないというように、いろいろな「わからない」があります。そのため、相手が話していることをどこまでわかっているか、自分で考^{かんが}えてみるこ^{じゅうよう}が重要です。「わかったつもり」になってしまって、実^{じつ}は相手とは違^{ちが}う理解^{りかい}をしていた、ということが起きてしまうかもしれません。お互いにちゃんと理解^{りかい}し合うために、「何がわかって、何がわからないのか」に合わせた質問^{しつもん}ができるといいですね。